

自由論題1、報告1

報告テーマ

インドネシアにおける金融監督の実効性：  
国有保険会社 Jiwasraya 事件からの考察  
“Effectivity of Financial Regulation in Indonesia：  
Study from the State-owned Jiwasraya Case”

氏名(所属)

小西 鉄(福岡女子大学)  
KONISHI Tetsu (Fukuoka Women's University)

要旨(800字程度)

経済のダイナミズムを生み出すうえで必要な自由で公正な競争環境を創出するために、金融監督には強い実効性が求められる。インドネシアでの金融監督に関する先行研究は、株式市場規制は金融監督当局に強い権限を与えているとしながらも、その履行は権限の裁量性と金融当局の消極性ゆえに脆弱であると指摘する[Apri 2014]。ただし、そこでの議論は民間企業を対象とした金融監督が中心となっている。これに対して本発表は、経済的影響力の大きい国有企業の事例を取り上げて金融監督の実効性を検証する。ここでは、国有保険会社 PT Asuransi Jiwasraya をめぐる事件を分析する。

本事件からインドネシアにおける金融監督に関して、以下の二つのことが指摘できる。第一に、国有企業に対する金融監督手続きは民間企業に比してさらに厳格に規定されている。しかし、他の国有企業の事件と同様に、金融当局の政治的脆弱性が金融監督の運用の実効性を歪め、国家に損害をもたらしたのである。第二に、複数のアクターで株の買い占めを繰り返して株価を操作する、“Saham goreng”と呼ばれる株式取引は、企業のファンダメンタルに基づかない売買で流動性を高めることにより異常な株価変動をもたらした。そのため、金融当局はこれを厳しく監視してきた。今回、90年代から“Saham goreng”を常套手段として利益を確保してきた著名投資家を逮捕し、政府は株式市場に蔓延するこうした取引を排除しようとしている。しかし、過去の同投資家による違法行為に対する制裁は、当該行為によって同投資家が得た利益の返還のみであった。今回の事件においても、政府による制裁の実効性が問われる。

東南アジアの中で発展途上なインドネシアの株式市場において、ダイナミズムを生み出す自由な取引は、金融当局の政治・経済権力に対する脆弱性ゆえに不公正な慣行をもたらし、それが国家に損害をもたらしてきたのである。